

地域おこし協力隊の活動日記

飛騨市内で活動している地域おこし協力隊員
市内に存在するさまざまな地域資源を活用し、地域の特色を活かした産業の創出を図ります



地域おこし協力隊の活動内容紹介
〜続・ワラビ粉活動〜
隊員 前原 融

飛騨市の皆様、こんにちは！
秋も深まり、肌寒さを感じる季節になってきましたね。この原稿を書かせて頂いている十月からは、いよいよわらび粉の生産シーズンに入ります！前回の記事でも紹介させてもらいましたが、今年度から火入れをしたワラビ畑を掘ろうと思うてワクワクしながら準備を進めております。



(↑当日の様子)

さて、今回の活動日記ですが、夏にあった出来事を一つ紹介させて頂きます。

八月に郡上市母袋（もたい）地区から、郡上市の地域おこし支援隊として活動されている隊員さんと、その受け入れ団体である「母袋わくわく会」の方々が視察にいらつしました。山之村の施設、産業、移住に対する取り組みを参考にしたいとのことで、総勢24名

の大部帯、しかも初の視察の受け入れということ、緊張しながら臨みました。

当日は、私が案内人を務め、山之村キャンプ場や山之村牧場、清水農園、下林農園などを訪問しました。各場所ですぐの仕事情況等を説明して頂き、それに対して母袋の方々が質問をして、意見交換をしたりと、丸一日かけて山之村を視察されました。

私もわらび粉のお話をさせて頂きました。地域の方々のご協力のおかげもあり、母袋の方々にも大変満足してもらえたようで、後日丁寧なお礼状まで頂きました！本当にありがとうございました！

話は変わりますが、少し今後の活動について（主にわらび粉関係で）紹介をさせて頂きます。

冒頭でも少し書かせて頂きましたが、今シーズンワラビを掘ろうとしている場所は、今春、地域の方にもお手伝い頂き、火入れを実施した場所です。先日ワラビ畑の様子を見に行ったり、ころ、良い感じに上部が枯れていました！



(→ワラビ畑の様子)

ただ、ちょっと気になるのはイノシシが通ったような道がついている事ですかね…。

今のところ掘り返されたような跡はありませんが、十分に警戒が必要なのかと感じている今日この頃です。来年度以降も定期的に火入れを行っていきたくはありますが、ワラビ畑を増やす事と守る事、両方しっかりできるようにするにはまだまだ問題も多く、やる事は山積みです…

いずれにせよ、今年度も（わらび粉生産的には）一番アツい季節が始まります！体調管理などをしっかりしつつ、生産に取り組んで行きたいと思えます。